

十和田の夏霧

泉鏡太郎

青空文庫

彼處かしこに、遙はるかに、湖みづうみの只ただ中なかなる一いつ點てんのモーターは、日ひの光ひかりに、たゞ青瑪瑙あをめのなうの瓜うりうの泛うか

 べる風情ふぜいがある。また、行く船ふねの、さながら白銀しろがねの猪ししの驅かけるが如ごとく見みえたるも道理ことわり

 よ。水底みなそこには蒼龍さうりうのぬしを潛ひそめて、大なる螻蛄るもりの影かげの、藻もに亂みだるゝ、と聞きくものを。

 現げんに其處ここを漕こいだ我が友ともの語かたれるは、水深すゐしん、實じつに一いつ千せん一ひやく百ひやく尺しやくといふとともに、青

 をくろ 黒くろき水みづは漆うるしと成なつて、梶かぢは迂すべり櫓ろは膠にかほし、ねばくと捲まかるゝ心地こころして、船ふねは其そのまゝ

 に人ひとの生はえた巖いはに化くわしさうで、もの凄すこかつた、ときへ言いふのである。私わたしは休屋やすみやの宿やどの縁えん

 に——床ゆかは高たかく、座敷ざしきは廣ひろし、襖ふすまは新あたらしい——肘ひぢ枕まくらして視ながめて居ゐた。草くさがくれの艦とこに、

 つきみさう 月見草つきみさうの咲さいた、苦掛船とまかけぶねが、つい手ての届とどくばかりの處ところ、白砂しろすなに上あがつて居ゐて、やがて

 こほろぎ 蟋蟀こほろぎの聞ねと思おもはるゝのが、數すう百ひやく一ひと群むれの赤蜻蛉あかとんぼの、羅うすものの羽はねをすいと伸のばし、すつと

 ま 舞まふにつれて、サ、サ、サと音おとが聞きこえて、うつゝに蘆間あしまの漣なみうへ動うごいて行ゆくやうである。

 とま 苦くを且かつつ覆おほうて、薄すくの穂ほも靡なびきつゝ、旅店りよてんの午ごは靜しづか、蟬せみも鳴なかない。颯さつと風かぜが吹ふいて

 くる、と、いまの天氣てんきを消けしたやうに、忽たちちかげつて、冷つめたい小雨こさめが麻絲あさいを亂みだして、其そ

 の苦くに、斜ななめにすらくと降ふりかゝる。すぐ又また、沖おきから晴はれかゝる。時ときに、薄霧うすぎりが、紙しちや

 帳ちやうを伸のべて、蜻蛉とんぼの色いろはちらちらと、錦葉もみぢの唄うたを描えがいた。八月はちぐわつ六むい日の日ひと覺おぼえて居ゐ

る。
むら雨^{さめ}を吹^{ふき}通^{とほ}した風^{かぜ}に、
大火鉢^{おほひばち}の貝殻^{かひがら}灰^{ばい}——これは大降^{おほふり}のあとの昨夜^{さくや}の泊^{とま}り
に、何^{なん}となく寂^{さみ}しかつた——それが日ざかりにも寒^{さむ}かつた。

昭和五年十一月

青空文庫情報

底本：「鏡花全集 卷二十七」岩波書店

1942（昭和17）年10月20日第1刷発行

1988（昭和63）年11月2日第3刷発行

※題名の下にあつた年代の注を、最後に移しました。

※表題は底本では、「十和田《とわだ》の夏霧《なつぎり》」とルビがついています。

入力：門田裕志

校正：川山隆

2011年8月6日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

十和田の夏霧

泉鏡太郎

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>